

山本有三

# 住まいの履歴

—活動を支えた家—



**令和6年 3月16日(土) ～ 9月1日(日)**

〔開館時間〕 午前9時30分～午後5時

〔入館料〕 300円(20名以上の団体200円) 年間パスポート1,000円(購入日より1年間有効)

中学生以下、障害者手帳持参の方とその介助者、校外学習の高校生以下と引率教訓は無料

「東京ミュージアムぐるっとパス2024」利用者は無料

年間パスポートは受付にてお買い求めいただけます。

〔休館日〕 月曜日(月曜日が休日の場合は開館)、翌日と翌々日を休館)

※4/30、5/1・7・8、7/16・17、8/13・14は休館

〔主催〕 公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団／三鷹市



有三とその自宅  
 上段：武蔵野の家に住んでいた頃(昭和2年頃)  
 中段：三鷹の家に住んでいた頃(昭和13年)  
 下段：湯河原の家に住んでいた頃(昭和40年頃)

## 三鷹市山本有三記念館





『生きとし生けるもの』(文藝春秋社 第11版 昭和12年4月)  
大正15年、有三は、武蔵野の家を建設する資金が入用だったこともあり、「東京・大阪朝日新聞」に自身初となる長編小説「生きとし生けるもの」の連載を開始した。



原稿「路傍の石 お月様はなぜ落ちないのか 三」  
有三は、代表作「路傍の石」を三鷹で執筆したが、昭和15年、検閲が厳しさを増したことからペンを折った。自由に執筆できるような社会情勢を待ちながら、邸宅を活用した公的な活動を展開させていった。



『濁流 雑談 近衛文麿』(毎日新聞社 昭和49年5月)  
湯河原での有三は古代史の研究に没頭したが、昭和48年、86歳という高齢にして、『濁流 雑談 近衛文麿』の連載を開始した。



大正15(1926)年、山本有三は、貸家ではない初めての家を東京府北多摩郡武蔵野村(現武蔵野市吉祥寺本町)に建てました。専門家にも相談をしたというこだわりの行き届いた家で、居住後も執筆に集中できるよう二階を増築し、階段に防音のためのシャッターを取り付けるなどの改修をほどこしています。

昭和11(1936)年には、多忙による体調の悪化から静かな環境を求めて同三鷹村(現三鷹市下連雀)に転居。広大な敷地に建つ洋風建築に住まい、自然豊かな環境で執筆を続けながら健康を回復させていきました。

三鷹の家の接収後は、大森区新井宿(現大田区山王)を経て、昭和28年に神奈川県足柄下郡湯河原町に古い平屋を購入し、移住しています。ここでも自らが見込んだ大工の瀬戸良治氏と綿密な打ち合わせを重ね、書斎を含む離れの増築や門の改修など、隅から隅までこだわり抜いた理想の邸宅を作り上げました。

武蔵野、三鷹、湯河原、それぞれの邸宅からは、山本有三の多彩な活動の背景にある生活の様子が浮かび上がってきます。

本展では、有三の時代ごとの住まいを、関係者の残したエピソードや同時期の活動内容とともにご紹介いたします。

## 第15回春の朗読コンサート

風薫る五月、朗読と楽器が織りなすハーモニーをお楽しみください。

日時:令和6年5月24日(金)・25日(土)

午後6時から7時30分

出演:野田香苗(朗読)

藍原ゆき(ヴィオラ・ダ・ガンバ)

定員:35名(予定)

参加費:入館券(300円)が必要です。

プログラム等詳細は、決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。

応募方法:

【1】往復はがきに①希望する公演日、②参加者氏名(2名様まで)、③代表者の住所・電話番号、④何を見て応募したか、⑤返信用はがきに宛先をご記入の上、当記念館「朗読コンサート係」までお送りください。

【2】申込フォーム<<https://forms.gle/9pRnFf4YWPEzkinBA>>からお申し込みください。

締切:4月24日(水)当日消印有効

\*お1人様につき、【1】が【2】の1応募限り。応募多数の場合は抽選となります。

\*抽選結果は5月2日(木)までに当落にかかわらずご連絡します。



野田香苗



藍原ゆき  
©AyaneShindo



## ガイドボランティアのご案内

土・日・祝日の午後1時から4時に、展示及び建物に関する解説を行っています。  
事前申し込みは不要ですので、お気軽に声をおかけください。

会場・問合せ

## 三鷹市山本有三記念館

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 2-12-27

TEL: 0422-42-6233 URL: <http://mitaka-sportsandculture.or.jp/yuzo/>

電車 JR中央線「三鷹駅」南口より徒歩12分

JR中央線・京王井の頭線「吉祥寺駅」南口(公園口)より徒歩20分

バス 三鷹駅南口よりみたかシティバス「むらさき橋」下車徒歩2分

吉祥寺駅南口より小田急バス「万助橋」下車徒歩5分

X @BungeiMitaka



公益財団法人 三鷹市スポーツと文化財団  
Mitaka City Sports and Culture Foundation

